

「ワーク・ライフ・バランス重視」 ジェンダー平等で互いに尊重し合える社会を望む



大学生たちは、男女共同参画やジェンダーについてどう考え、どう感じているのだろうか。岡山市内の大学生たち10人に、ジェンダー平等や卒業後のライフプランなどについてアンケート形式で尋ねた。回答者からは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視し、ジェンダー平等で、互いに尊重し合える社会を望む声が多く聞かれた。

日本では、自然科学系や工学系に進む女性の割合がOECD諸国のなかでもっとも低いというデータがある¹。今回、アンケートを実施した大学生は、岡山市内の大学で、男女比に偏りがあると思われる学部・学科を選んだ大学生たちである。そのリアルな声を通して、新しい時代の価値観や、これからの社会が目指すべき姿が見えてきた²。

¹内閣府『男女共同参画白書 令和4年版』（OECD Statistics より）

²文中の四角囲いの意見は、アンケートの回答の中で印象深かったものを掲載させていただいた。

■進路決定は、自分基準

Q 「進路決定の際、性別による偏見や思い込みに基づいたアドバイスを受けたか」

家族や教師などから「女性だから〇〇学部は向いていない」や「男性なのに〇〇学部に行くのか？」といった性別による偏見や思い込みに基づいたアドバイスを受けた学生は一人もいなかった。

「（防災、建設、日本語学、経済学など）専門的に学びたい」「資格を取りたい」「子供のころからの夢や目標をかなえたい」「この学校に行きたい」など、進路は、性別による固定的なイメージではなく、自らの関心や得意分野を基準に選んでいることがうかがえる。

■キャンパスライフに見る「平等」と「違和感」

Q 「入学後の生活で性別による偏見を感じたか」

10人中7人が「偏見を感じなかった」と回答した。大学では性別を意識せず協力し合える雰囲気ができあがっているようだ。一方、10人中3人は「授業中の何気ない発言や、グループ活動で同性同士が固まりがちな雰囲気に戸惑いを覚えた」と答えている。

Q 「ジェンダー平等について日頃感じていることは」

多くの学生たちは過度に性別を意識しておらず、不便や不平等を感じていなかった。看護や教育など、従来は特定の性別のイメージが強かった分野でも、互いを対等な仲間として受け入れ、互いに尊重し合う雰囲気が感じられる。

女子が多いからこそ、“男性がする仕事”という意識を持つことなく活動に取り掛かれている。例えば、グループワークのリーダーや発表者、文化祭の責任者や企画の立案など、責任感が必要な役割にも積極的に関わっている学生が多いと思う。（文学系の女子学生Aさん）

工学系では、大学案内やインターンシップで「女性歓迎」という表現を目にすることも多く、そうした取り組みを肯定的に評価する女子学生もいた。

一方、「男子が少なく居場所を見つけにくい」という回答や「男が力仕事を任せられがち」「細かい作業は女子とい

う意識」など、固定的な役割分担が残っている場面があるという回答もあった。性別を意識せず行動できる環境が整いつつあるが、ふとしたところに古い慣習の名残を感じることもあり、違和感を受け止めながら日々の生活を送っているといえる。

Q 「学校の授業における男女共同参画の学習で印象に残っていることや現在意識していることがあるか」

10人中4人が、「性別が性格や嗜好（しこう）に関係しない」「赤は女性、青は男性などといった、好みや色を固定概念で決めつけすぎないようにしている」など、身近な場面で性別によらない選択を心がけていることがわかった。

一方で、意識しすぎることが真の平等を遠ざけるのではないかと考える学生たちもいて、過剰な配慮ではなく、自然体の関係づくりを重視する傾向もうかがえる。多くの学生たちが、男女共同参画は日常の延長線上にあると受けとめており、性別の違いにとらわれず、自分らしさを大切にしている新しい世代の感覚が伝わってくる。

男女共同参画は「どちらかが我慢すること」ではなく、「お互いが尊重し合い、力を発揮できる社会をつくること」だと感じている。学校のグループ活動や日常の中でも、相手の立場を思いやりながら対等な関係を築くことを意識している。（経済・経営学系の女子学生Bさん）

■働きやすさを重視

社会へ出て働くことを考えた際に、学生たちは何を職場に求めるのだろうか。

Q 「就職活動においてワーク・ライフ・バランスを重要視するか」

10人中10人が「重要視する」「まあまあ重要視する」と回答した。

将来的に結婚した場合、おそらく共働きになるだろうと思うので、子供ができたり、お互いの親族に介護が必要になった際にパートナーだけに負担をかけないようにしたいから、まあまあ重要視する。（経済・経営学系の男子学生Cさん）

その理由は、大きく3つに分かれた。

1) 「結婚や育児をしても働き続けたいからこそ、休暇制度や働きやすさを重視する」など、将来の家庭を大切にするとともに、家庭内の責任を公平に分かち合い、長く働き続けたい。

2) 「働き詰めで体を壊すのは避けたい」など、健康を犠牲にしてまで働くのではなく、心身の健康を守ることを大切にしたい。

3)「働くときは働く、休むときは休む」など、メリハリを重視し、仕事のために全部を犠牲にするのではなく、人全体を豊かにしたい。

学生たちは、心地よく生きるための基盤としてワーク・ライフ・バランスを重要視しているといえる。

Q「従業員の男女比は重要視するか」

10人中7人が「重要視する」「まあまあ重要視する」と回答。

同性のほうが何かと頼りやすく、気を使わなくてもよいことが多いため、職場内で気を張らず過ごすために従業員の男女比は少し重要視する。(教育学系の男子学生Dさん)

このほかにも、「マイノリティが自由に発言できないことがないように」「男女比の偏りが考え方の偏りにならないように」など、学生たちが重視するのは単なる人数の割合ではなく、「誰もが自由に発言でき、多様な意見が受け入れられる環境か」「誰もが安心して働ける環境か」という職場の雰囲気や心理的安全性だということもうかがえる。

その一方で、10人中3人の学生たちは「あまり重要視しない」「重要視しない」と回答。職業の特性を理解し、性別の比率にこだわらない現実的な姿勢も見られる。

高校、大学と女性の割合が低かったが、あまりやりにくさなどを感じたことがなかったため、就職活動においても従業員の男女比はあまり重要視していない。(工学系の女子学生Eさん)

Q「管理職への女性登用の比率は重要視するか」

10人中8人が「あまり重要視しない」「重要視しない」と回答。「役職は性別ではなく能力で決まるべきだ」という考えが多く挙げられた。

一方、2人からは、女性管理職の存在が、「多様な視点で組織を強くする」「評価の公平性を示す指標にもなり得る」との意見も出された。

■大学生たちが描くライフプランと未来

Q「自分のライフプランを考えると、大切にしたいことはどんなことか」

「収入・安定」「プライベート・自分の時間」のワードが特に多く、経済的安定と生活の充実を両立したいという傾向が明確だった。「やりがい・目標」「社会貢献」と働く意義や成長を求めるワードも多くあり「安定 × やりがい × プライベートの充実」を軸に、“自分らしく働き、生きる”ことを重視したいという思いが共通していた。

- ・プライベートも楽しみながら、仕事をして何か社会の役に立てることを大切にしたい。(工学系の女子学生Fさん)
- ・安定した収入で、楽しく仕事をしたい。(栄養学系の男子学生Gさん)
- ・世の中変動が多い中、安定した収入を得て子供ができたなら食卓を囲んで家族を大切にしたい。(栄養学系の男子学生Hさん)
- ・自分の仕事内容に、自分がちゃんと満足するまで形にできているかということ大切にしたい。(教育学系の男子学生Iさん)

■大学生たちが望むこれからの「男女共同参画社会」

最後に、男女共同参画という視点から社会全体をながめたとき、今後どのような社会が望ましいと思うか、述べてもらった。学生たちから、その本質に迫る様々な願いの込められた回答を得たので、以下に紹介する。

【個の尊重と自由】

- ・「男だから女だからと決めつけるのではなく、自身のしたいこと、なりたいものになんの気兼ねもなく取り組める社会」(教育学系の男子学生Dさん)
- ・「男女どちらでも、自分のやりたいことが性別によって制限されず、そのことを意識せずに生きていける社会」(工学系の女子学生Fさん)
- ・「男子と女子が同じくらいの比率で居て欲しい」(栄養学系の男子学生Gさん)
- ・「法律上同性愛を認められているので、周りからの批判などがあるかもしれないが気にせず仕事や家庭を持ってほしいと思う。個々の自由を尊重し合う社会を望んでいる」(栄養学系の男子学生Hさん)

【能力と評価の公平性】

- ・「ジェンダー比率の是正を目指すのではなく、評価が平等に行われることで、真に適性のある人が役割をもって活躍できることに重点をおく社会」(経済・経営学系の男子学生Cさん)
- ・「一人間として捉え、その人の実力や活躍を考える社会であり、一人間としての役割を果たしていく社会が今後望ましい」(看護学系の男子学生Jさん)
- ・「個人個人の能力が性別に関係なく評価される社会」(教育学系の男子学生Iさん)

【家庭・地域での協力】

- ・「家庭や地域においては、家事や育児といった『アンパイドワーク(無償労働)』が家庭内で特定の性に偏らず、互いに協力しながらバランスよく分担されることが望ましい」(文学系の女子学生Aさん)
- ・「職場が家庭を考えた制度を作ること、みんなで家事育児・地域との関わりを持つことができる社会が必要」(看護学系の男子学生Jさん)
- ・「女性が出産や育児を理由にキャリアを諦めなくてよい制度、また男性も家事や育児に積極的に参加できる風土の形成が重要」(経済・経営学系の女子学生Bさん)

【相互理解】

- ・「人によって感じ方や捉え方は違うため正解はないが、より多くの人々が快適に暮らせる社会を作っていくことが大切。お互いが相手の気持ちを理解し、尊重しあえるような社会が望ましい」(工学系の女子学生Eさん)

■アンケートを終えて

今回のアンケート結果には、学生たちの「性別ではなく自分自身を見てほしい」「お互いに尊重し合いたい」「過剰な配慮ではなく自然体の関係づくりがしたい」という極めてシンプルな思いがあふれていた。

「誰もが『働きやすさ』と『生きやすさ』を両立できる社会こそ真の意味での男女共同参画社会だ」という意見もあり、まさに今回の特集の核心をついているといえよう。

若者たちの希望が尊重される社会であるために何ができるのか、私たち一人一人がこれからも考え続けていく必要がありそうだ。